

所 属	県土整備部	河川課
担当(係)名	徳山ダム担当	内線 3731

(款) 8 土木費 (項) 3 河川費 (目) (6) 直轄事業負担金
(明細書事業名) 公共事業
直轄河川事業負担金【徳山ダム建設事業の促進】

1 事業費	【財源内訳】	【主な用途】
3,128,080	県債 3,128,000	負担金、補助及び交付金
(前年度 3,451,562)	一般財源 80	3,128,080

2 事業目的

洪水時の揖斐川の水位を下げ、揖斐川流域住民の生命と財産を守る(洪水調節)
揖斐川の既得用水の安定取水、河川環境の維持保全を図る(流水の正常な機能の維持)
異常渇水時に緊急水を補給し、渇水に強い木曾川水系とする(緊急水の補給)
中部圏の発展に必要な都市用水を供給する(新規利水)
電力の安定供給を図る(発電)

3 事業概要

総事業費 3,500億円
(現時点における事業費縮減の見込額 約147億円)
H19年度事業費 約91億円(H19年度末徳山ダム完成予定)
H19年度事業内容:ダムサイト周辺整備、工事棟等の仮設備撤去・跡地復旧工事及び
試験湛水(継続)等を実施



完成予想図



1月22日現在の状況

4 事業効果

徳山ダムの完成と揖斐川の河川改修等の実施により、揖斐川の治水機能の大幅な向上が図られ、現在15年に一度の洪水に耐え得る安全度が70年に一度の洪水に対しても耐え得る安全度となり、木曾川や長良川と同程度となる。

また、西濃地域における将来の水需要対策、地盤沈下や地下水汚染など地下水環境の悪化に対する水源の多元化対策として、水の安定的な供給が可能となる。